

R2

## アクションプラン全体計画（平成28～令和2年度）

推進項目	91 その他					重要度	B		
番号・取組事業名	91002	学習サポート推進事業	作成日	R2.4.1		更新日	R3.3.31		
担当部署	270300	学校教育部 指導課	責任者	逆井 俊彦 須藤 昌英		担当者	高橋 静 平野 秀樹		
取組年度	H28	～	R2						
効果	その他改善								
最終目標	本事業は、サポート教員の配置により、児童生徒に少人数による学習指導を行う人的支援事業であり、学校教育に寄せられる学力の向上やきめ細かい児童生徒指導への期待に応える重要な事業である。加配教員の配置状況や各校の多人数学級の状態を考えあわせ、効果的なサポート教員配置を進めていくことが最終目標である。								
年度	区分	取組内容・目標							
平成28年度	進んでいる	各校のニーズや現状を把握し、サポート教員配置の見直しを図った。また、サポート教員の知識・技能向上に向けた研修の充実を図った。							
平成29年度	進んでいる	各校のニーズや現状を把握し、サポート教員配置の見直しを図った。また、サポート教員の知識・技能向上に向け、年3回の研修を行い充実を図った。							
平成30年度	計画どおり	サポート教員の指導効果を高めるために、年3回の研修を行った。また、学校からの幅広いニーズに応じた配置を可能とするための人材確保に努めた。							
令和元年度	計画どおり	サポート教員の指導効果を高めるために、事例検討を中心とした研修を年間3回実施することができた。学校の「困り感」や「ニーズ」を聞き取り、それらに応じた次年度の職員配置を行うよう努めた。							
令和2年度	計画どおり	人的支援が必要な小中学校への配置を図り、少人数教育で個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。							
成果指標	指標名	柏市学力学習状況調査(4段階評価の平均値)					単位	点	
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	最終値	
	当初計画値	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	小3. 41中3. 39	
	変更計画値							0	
	実績値		小3. 44中3. 43	小3. 45中3. 49	小3. 45中3. 48	小3. 29中3. 25	—	—	
効果額	歳入増加	当初計画額						0	
		変更計画額						0	
		実績額						0	
	歳出削減	当初計画額						0	
		変更計画額						0	
		実績額						0	
	計	当初計画額		0	0	0	0	0	0
		変更計画額	0	0	0	0	0	0	0
		実績額		0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)		少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加	少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加	少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加	少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加	少人数学級や 少人数授業で 指導を受ける 児童生徒の割 合の増加			

R2

## アクションプラン(令和2年度)

推進項目	91 その他			重要度	B					
番号・取組事業名	91002	学習サポート推進事業	作成日	R2.4.1		更新日	R3.3.31			
担当部署	270300 271000	学校教育部 指導課 学校教育部 児童生徒課	責任者	逆井 俊彦 須藤 昌英		担当者	高橋 静 平野 秀樹			
	区分	取組内容・目標								
令和2年度	計画どおり	人的支援が必要な小中学校への配置を図り、少人数教育で個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。								
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月			
1	年度当初に、本事業の目的・目標・業務内容等に関して共通理解を図るための研修を実施する。			○						
2	小学校学習サポート教員に対し、個別支援のノウハウに関する研修を実施する。			○						
3	中学校生徒指導サポート教員に対し、個別支援のノウハウに関する研修を実施する。			○						
4	両サポート教員に対し、特別な支援を要する児童生徒理解に関する研修を実施する。				○					
5	2学期末に、今年度の取組に関する成果と課題を明らかにするための調査を実施する。					○				
6	各学校に対して、次年度の配置要望に関する調査を実施する。					○				
7	サポート教員に対して、次年度の勤務意向調査を実施する。					○				
8	調査の分析結果および各学校の配置要望をもとに、次年度の配置計画を策定する。						○			
9										
10										
進捗										
	上半期	進捗状況	その他	コメント						
					<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた研修会は実施できなかった。そのため、サポート教員の勤務校を訪問し、支援の様子を参観し、面談を行った。</li> <li>今後は次年度の要項の見直しと、配置計画の策定を行い、適切な運用に向け、準備を進めていく。</li> </ul>					
進捗・実績										
	年度末	成果指標名	柏市学力学習状況調査(4段階評価の平均値)		計画値	単位	点	実績値	単位	点
						小3. 41	中3. 39		-	
		達成状況【成果】	その他	コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた研修会は実施できなかった。そのため、サポート教員の勤務校を訪問し、支援の様子を参観し、面談を行った。</li> <li>次年度から、「サポート教員」を「個別支援教員」と名称変更する。そのことに伴い、配置要領ならびに配置計画の見直しを行った。あわせて、次年度の適切な運用に向け、学校との調整を図った。</li> <li>柏市学力・学習状況調査が実施されなかったことから、成果指標については、調査できなかった。</li> </ul>					
		進捗状況【活動】	計画どおり							
		計画変更(次年度以後)	取組内容	計画値	コメント					
評価	評価者	須藤 昌英	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする							
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	本学習サポート推進事業は、合理的な配慮や学習支援、不登校支援等、何らかの特別な支援を要する児童生徒に対して、きめ細かな指導・支援を行う上で、必要不可欠な事業である。 この点に関して、各学校からの評価や観察する中で把握できた状況はおおむね期待どおりの状況であった。よって一定の成果が認められることから、継続的な取り組みを求めたい。						
	方向性	継続実施								

R2

## アクションプラン全体計画（平成28～令和2年度）

推進項目	91 その他				重要度	B		
番号・取組事業名	91003	学校図書館活用推進事業		作成日	R2.4.1		更新日	R3.3.31
担当部署	270300	学校教育部 指導課		責任者	逆井 俊彦		担当者	鈴木 裕太郎
取組年度	H28	～	R2					
効果	その他改善							
最終目標	児童生徒の積極的な学校図書館活用を図ることを通して、「学ぶ意欲と学ぶ習慣」及び「学び続ける力」を育む授業に改善するため、学校図書館指導員を増員し、図書館活用の専門的な資質向上を図り、柏市内小中学校の学校図書館環境の整備及び活用の維持・向上を図っていく。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成28年度	計画どおり	司書教諭と図書館指導員の連携を強化し、学校図書館を活用した授業の改善、読書活動の推進を行い、市内各校においてビブリオバトルと読書会の開催を推進した。土小学校が子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣賞受賞						
平成29年度	計画どおり	「柏市調べる学習コンクール」を開催し、授業における調べ学習を推進することを通して、学校図書館活用を図った。柏第一小学校の児童が、全国コンクールにおいて優良賞を受賞						
平成30年度	計画どおり	司書教諭と図書館指導員が連携して、中学校区単位で「育てたい子供像」を共有し、ビブリオバトル・読書会を取り入れた授業に改善することを通して、学校図書館活用を図った。						
令和元年度	遅れている	司書教諭と図書館指導員が連携して、中学校区単位で「育てたい子供像」を共有し、各校における年間計画の改善を通して、学校図書館活用の推進を目指した。						
令和2年度	完了（事業終了）	司書教諭と図書館指導員が連携して、中学校区単位で「育てたい子供像」を共有し、「調べる」「読む」をバランスよく年間計画に織り込み、学校図書館活用の推進を目指した。						
成果指標	指標名	連絡便における市立図書館及び各学校間の流通冊数					単位	冊
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	最終値
	当初計画値		小6,000・中4,000	小6,300・中4,300	小6,500・中4,500	小6,800・中4,800	小7,000・中5,000	小7,000・中5,000
	変更計画値	小5,717・中3,638						0
実績値		小5,774・中3,269	小5,439・中3,377	小6,737・中4,985	小3,852・中3,562	小2,970・中2,876	小2,970・中2,876	
	歳入増加	当初計画額						0
		変更計画額						0
実績額							0	
歳出削減	当初計画額						0	
	変更計画額						0	
	実績額						0	
効果額	計	当初計画額	0	0	0	0	0	0
		変更計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)		学校図書館指導員が1校に1人配置されることにより、課題解決型の授業が充実する。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、調べ学習が推進する。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、教員の教材研究の質が高まる。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、図書館活用における各校の課題を発見し解決できる。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、学校図書館活用が日常化される。	学校図書館指導員が1校に1人、5日間配置されることにより、学校図書館活用が日常化される。	

R2

## アクションプラン(令和2年度)

推進項目	91 その他				重要度	B			
番号・取組事業名	91003	学校図書館活用推進事業	作成日	R2.4.1	更新日	R3.3.31			
担当部署	270300	学校教育部 指導課	責任者	逆井 俊彦	担当者	鈴木 裕太郎			
	区分	取組内容・目標							
令和2年度	完了 (事業終了)	司書教諭と図書館指導員が連携して、中学校区単位で「育てたい子供像」を共有し、「調べる」「読む」をバランスよく年間計画に織り込み、学校図書館活用の推進を目指した。							
取組項目				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		
1	学校図書館指導員研修会の実施			○	○	○	○		
2	小中学校司書教諭研修会の実施			○	○		○		
3	子ども司書養成講座の実施			○	○	○	○		
4	市内小中学校学校図書館流通システムの運用			○	○	○	○		
5	柏市学校図書館活用事例集の作成						○		
6	柏市調べる学習コンクールの実施				○	○			
7									
8									
9									
10									
進捗									
上半期	進捗状況	その他	コメント	新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた研修会が実施できなかった(会場での研修をWEB研修に代替して開催した研修もあった)。流通システムはコロナの影響をうけることなく活用できた。子ども司書講座の夏休みの市立図書館研修は映像研修に変更した。調べる学習コンクールは出品数は減少したが、無事に開催することができた。各取組がコロナの影響を受けながら何ができるかを考えながら試行錯誤の中行った上半期であった。					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	連絡便における市立図書館及び各学校間の流通冊数		計画値	単位	冊	実績値	単位	冊
					小7,000・中5,000			小2,970・中2,876	
	達成状況【成果】	一部達成	コメント	5年計画の最終年であったが新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、学校図書館活動が制限を受けたせいか当初設定した計画値に達成できなかった。今後はコロナ禍の状況においても効果的な学校図書館活動を模索していく必要がある。					
	進捗状況【活動】	完了 (事業終了)							
計画変更(次年度以後)	取組内容	コメント							
	計画値								
評価	評価者	増子 健司	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	「確かな学力」と「豊かな心」の育成を目指し、学校図書館を活用した教育を推進してきた。特に、学校図書館ネットワーク事業による学校図書館蔵書検索システムを稼働し、児童生徒の学習に適した図書をより多く配置できる環境を整えた。令和元年度及び2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があり、計画的に進めていくことが難しかったが、今後も読書量の増加を図り、豊かな心の形成に寄与し、情報活用能力の更なる育成に向けた取組を求めたい。					
	方向性	完了 (目的未達成)							

R2

## アクションプラン全体計画（平成28～令和2年度）

推進項目	91 その他					重要度	B		
番号・取組事業名	91004	学校配当予算における予算編成方法の見直し			作成日	R2.4.1		更新日	R3.3.31
担当部署	270100	学校教育課 学校財務室			責任者	関根 江里子		担当者	学校財務担当
取組年度	H29	～	R2						
効果	その他改善								
最終目標	<p>現在、学校財務室から予算の一部を各学校へ配当し、学校長権限で予算を執行している。この学校配当予算は、消耗品や備品の購入、修繕等に使用しており、学校財務室において各校の予算配当基準額を毎年見直し、実態に合わせた予算配分を目指している。</p> <p>令和元年度から、振興備品予算の早期執行率(8月末時点)について目標を定め、達成できなかった学校には指導・助言を行う。これにより、学校の速やかな予算執行が図れるとともに、備品の棚卸を早期に進めるため、次年度へ向けたより適切な予算要求を行うことができる。</p>								
年度	区分	取組内容・目標							
平成28年度									
平成29年度	計画どおり	財務事務の適正な管理に関する取組について、評価指標及び各指標の評価ポイントを設定し、各小中学校の取組状況の年間データの蓄積を行った。							
平成30年度	計画どおり	財務事務の適正な管理に関する取組について、インセンティブポイントの7項目の評価指標に基づき、必要に応じて指導助言を行った。							
令和元年度	遅れている	各学校における振興用備品予算の早期執行について目標を定め、8月末時点の執行率の目標を75%に設定し、達成できなかった学校に、速やかな予算執行を図るよう指導及び助言を行った。							
令和2年度	計画どおり	各学校における振興用備品予算の早期執行について意識付けを行うため、8月末時点の執行率の目標を75%に設定し、達成できなかった学校に、速やかな予算執行を図るよう指導及び助言を行った。							
成果指標	指標名	振興用備品予算の8月末時点での執行率目標(75%)を達成した学校の割合					単位	%	
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	最終値	
	当初計画値			90	90	90	90	90	
	実績値			50	75	64	68	68	
効果額	歳入増加	当初計画額						0	
		変更計画額						0	
		実績額						0	
	歳出削減	当初計画額						0	
		変更計画額						0	
		実績額						0	
	計	当初計画額		0	0	0	0	0	0
		変更計画額		0	0	0	0	0	0
		実績額		0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)			児童及び生徒 に振興用備品 を長期間使用 させることが できる	児童及び生徒 に振興用備品 を長期間使用 させることが できる	児童及び生徒 に振興用備品 を長期間使用 させることが できる	児童及び生徒 に振興用備品 を長期間使用 させることが できる			

R2

## アクションプラン(令和2年度)

推進項目	91 その他			重要度	B				
番号・取組事業名	91004	学校配当予算における予算編成方法の見直し	作成日	R2.4.1		更新日	R3.3.31		
担当部署	270100	学校教育部 学校財務室	責任者	関根 江里子		担当者	学校財務担当		
	区分	取組内容・目標							
令和2年度	計画どおり	各学校における振興用備品予算の早期執行について意識付けを行うため、8月末時点の執行率の目標を75%に設定し、達成できなかった学校に、速やかな予算執行を図るよう指導及び助言を行った。							
取組項目				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		
1	学校財務事務の適正な運営と学校配当予算の有効活用への取組			○	○	○	○		
2	取組状況に応じた学校への個別指導・助言						○		
3	前年度決算及び取組状況を参考に、各学校の新年度予算配当基準額を決定				○				
4	各学校に、新年度の予算要望書の作成を依頼				○				
5	各学校から提出された予算要望書の内容確認				○				
6	各学校の新年度予算要望についてヒアリング				○				
7	学校財務室による学校予算要望の査定・調整					○			
8	財政課へ予算見積書の提出					○			
9	新年度予算内示後、各学校へ配当予算の内示						○		
10									
進捗									
	上半期	進捗状況	遅れている	コメント	8月末時点で各学校における振興用備品購入執行率目標(75%)については、目標の90%に達成しない状況であった。要因としては、新型コロナウイルスの対策で年度当初から休校等の対応等も影響し、各校の物品購入要望書の作成が遅れ、計画的に進行しなかった。 8月末までに執行率は目標に達しなかったが年度末までには、予定の備品の購入を達成できるよう進行管理を行っていく。				
進捗・実績									
	年度末	成果指標名	振興用備品予算の8月末時点での執行率目標(75%)を達成した学校の割合	計画値	単位	%	実績値	単位	%
		達成状況【成果】	一部達成			90		68	
		進捗状況【活動】	計画どおり	コメント	上半期での執行率は目標に届かなかったが、年度末には振興用備品予算の執行率は約95%以上となった。 今後は、振興用備品を8月末までに購入するよう学校に働き掛けていく。				
		計画変更(次年度以後)	取組内容		コメント				
			計画値						
評価	評価者	後藤 義明	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	早期に発注、納品させることは現に在籍している児童・生徒の利用につながるため、今後も適宜、指導助言を行い、予算執行の進捗管理に努めてほしい。					
	方向性	継続実施							